

第18期(2016年3月期) 決算のご説明

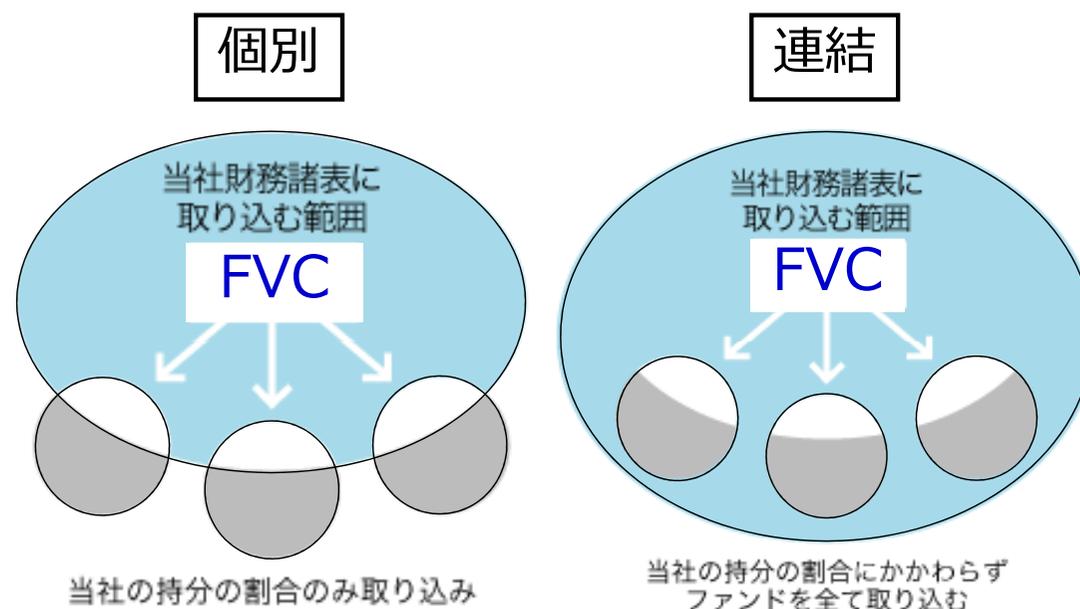
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(JASDAQスタンダード, 証券コード8462)

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。



本資料の数値は、特に指定がない限り
すべて2016年3月末現在のものです。

当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の**当社持分のみを連結した個別決算数値を記載**しております。



投資事業組合の運用総額に占める当社持分の割合25.9%

<連結決算の場合>

- 連結貸借対照表
 - ・自己資本比率が低下
- 連結損益計算書
 - ・営業投資有価証券にかかる損益が増幅
 - ・投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、相殺消去（管理報酬等）

1.	株式市場環境	…	P.3
2.	2016年3月期決算説明	…	P.9
3.	主な取り組み	…	P.18
4.	2017年3月期の展望	…	P.24
	【参考】会社概要		

株式市場環境

1.1. 株式市場の状況(1)

ライブドアショックによる新興市場へのインパクトはいまなお大きい

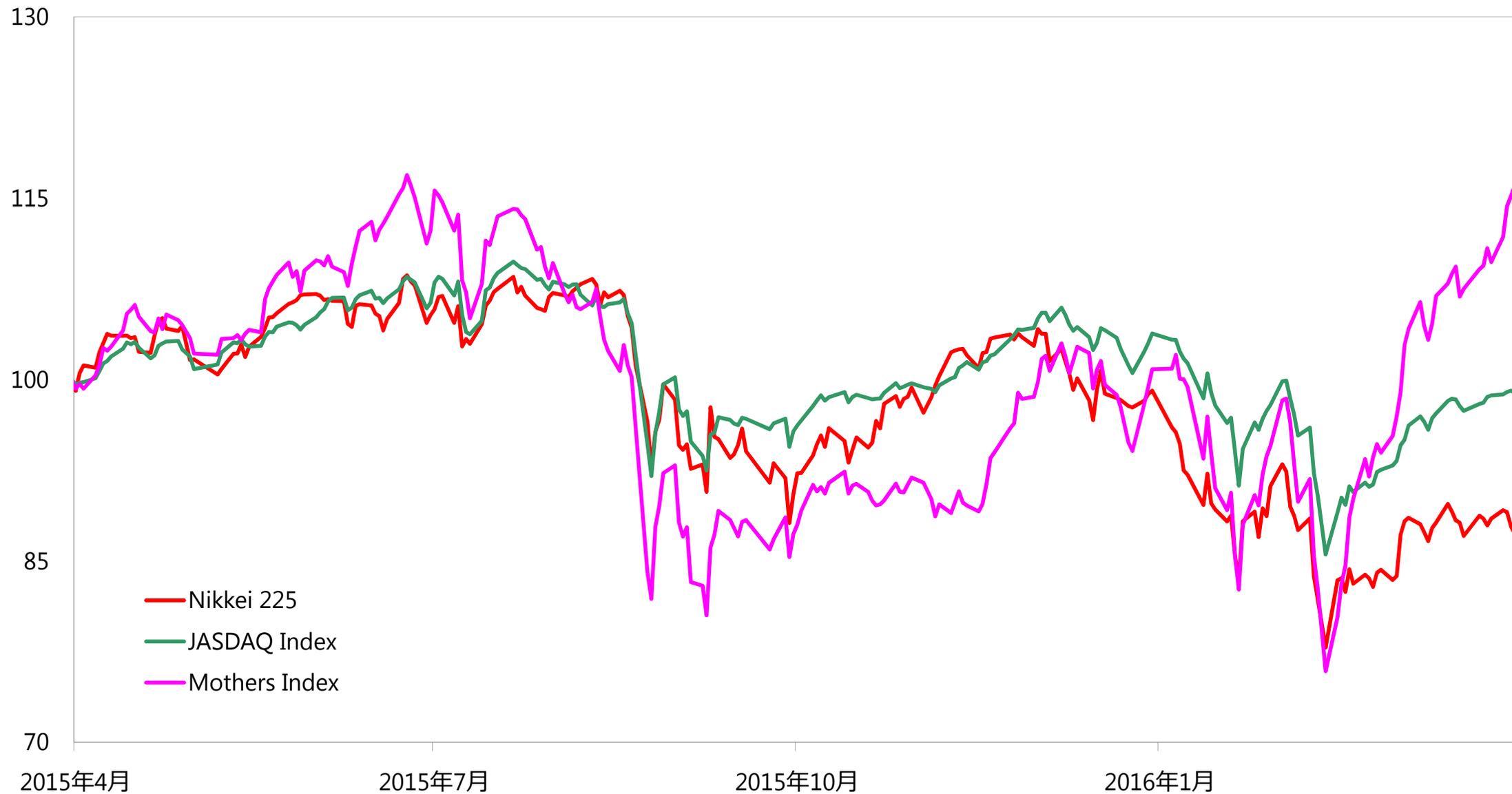
2006年1月16日を100とする指数

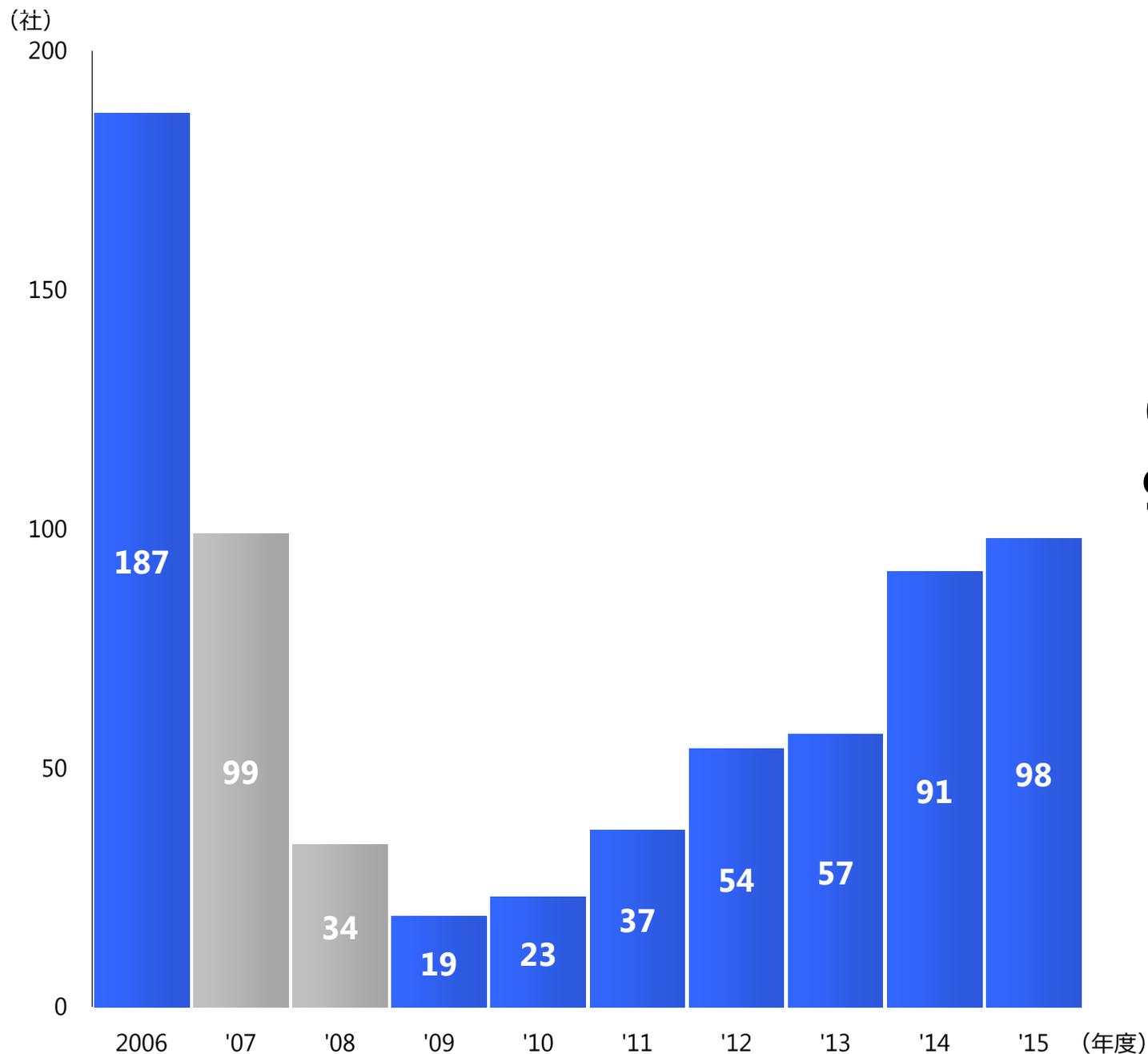


1.2. 株式市場の状況(2)

相場は大きく上下

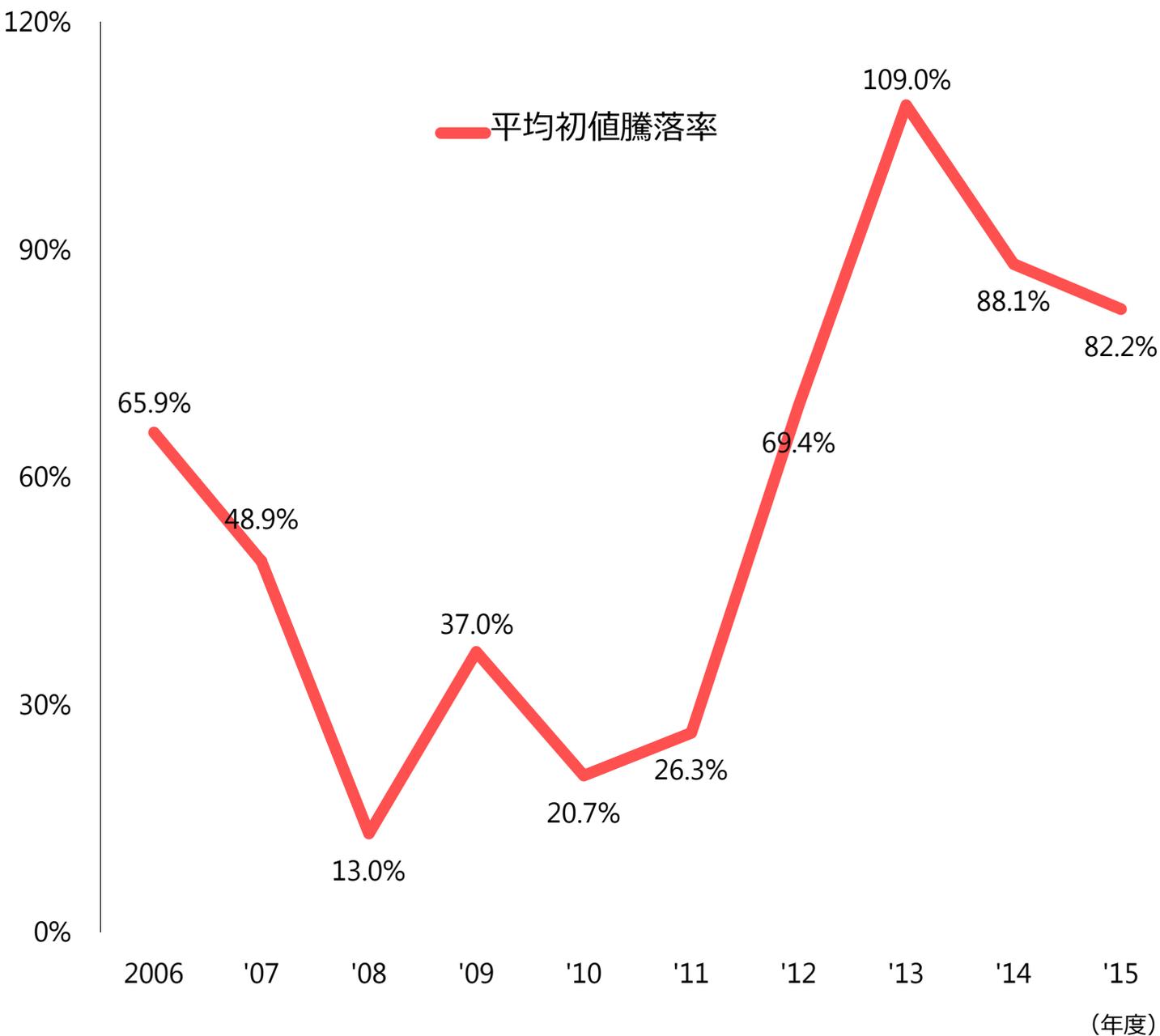
2015年3月31日を100とする指数





新規上場社数

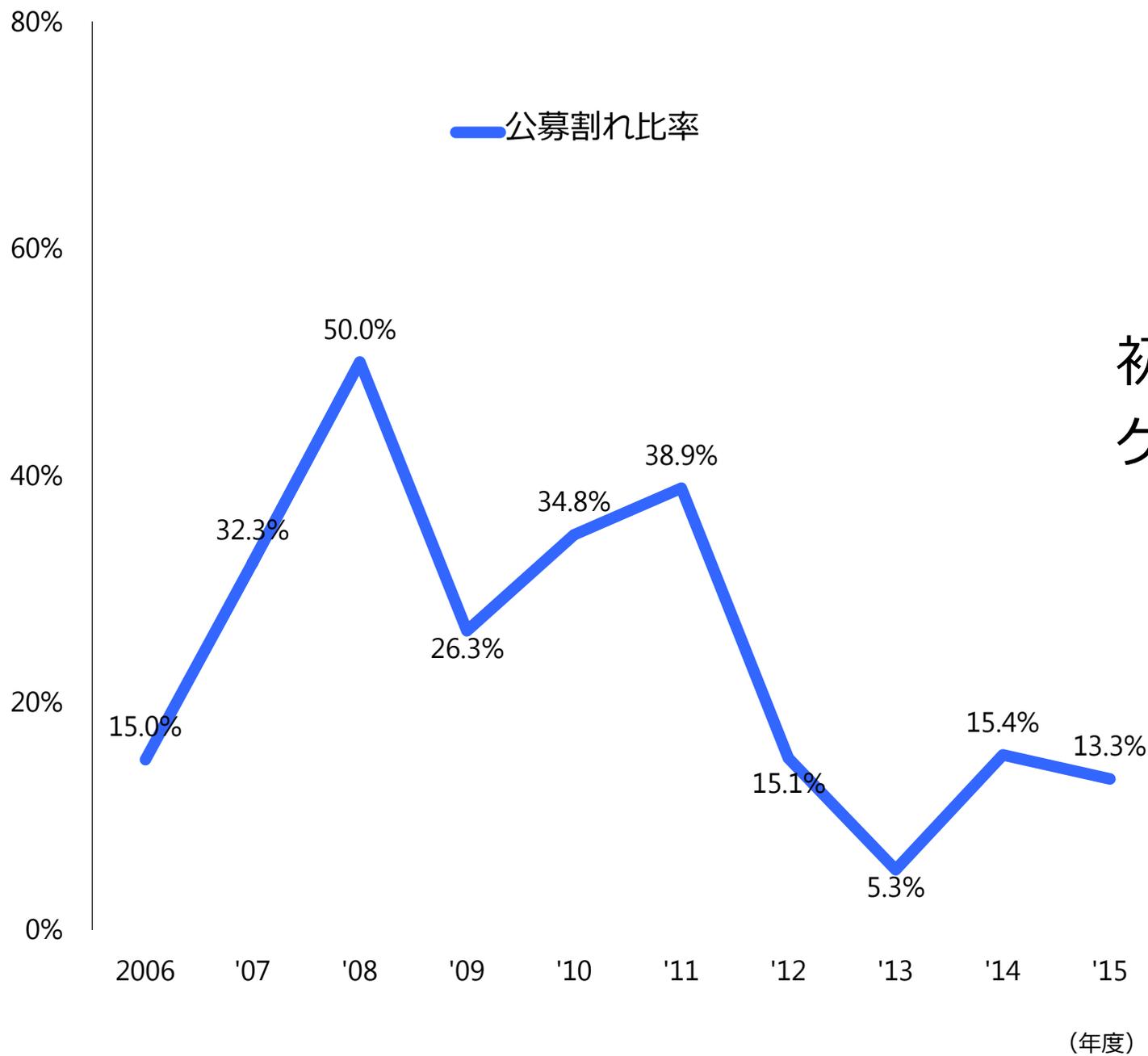
6年連続増加したものの
9年連続100社に満たず



新規上場市場

案件による選別が進むものの、**初値は公募価格のほぼ倍の水準**

初値騰落率：
$$\{ (\text{初値} - \text{公募価格}) / \text{公募価格} \} \times 100 (\%)$$



新規上場市場

初値が公募価格を下回る
ケースは依然少ない

※公募割れ比率：
新規上場企業のうち、初値が公募価格を下回った企業の比率

2016年3月期 決算説明

2.1. 決算概要

ジェイエスエス持分売却の反動により売上高は減少したものの、成功報酬の計上等により**2006年3月期以来10期ぶりの営業黒字**

単位：百万円	第16期 2014年3月期	第17期 2015年3月期	第18期 2016年3月期	対前期比
売上高	462	601	417	△183
営業損益	△60	△147	10	157
経常損益	△86	△173	△ 11	162
当期純損益	△94	△182	△ 21	161
純資産	196	102	782	679
総資産	1,154	878	1,419	541
自己資本比率	15.8%	11.3%	54.9%	43.6

- 資金調達の目的(当初)

新規ファンド組成による**収益基盤の獲得及び資本増強**

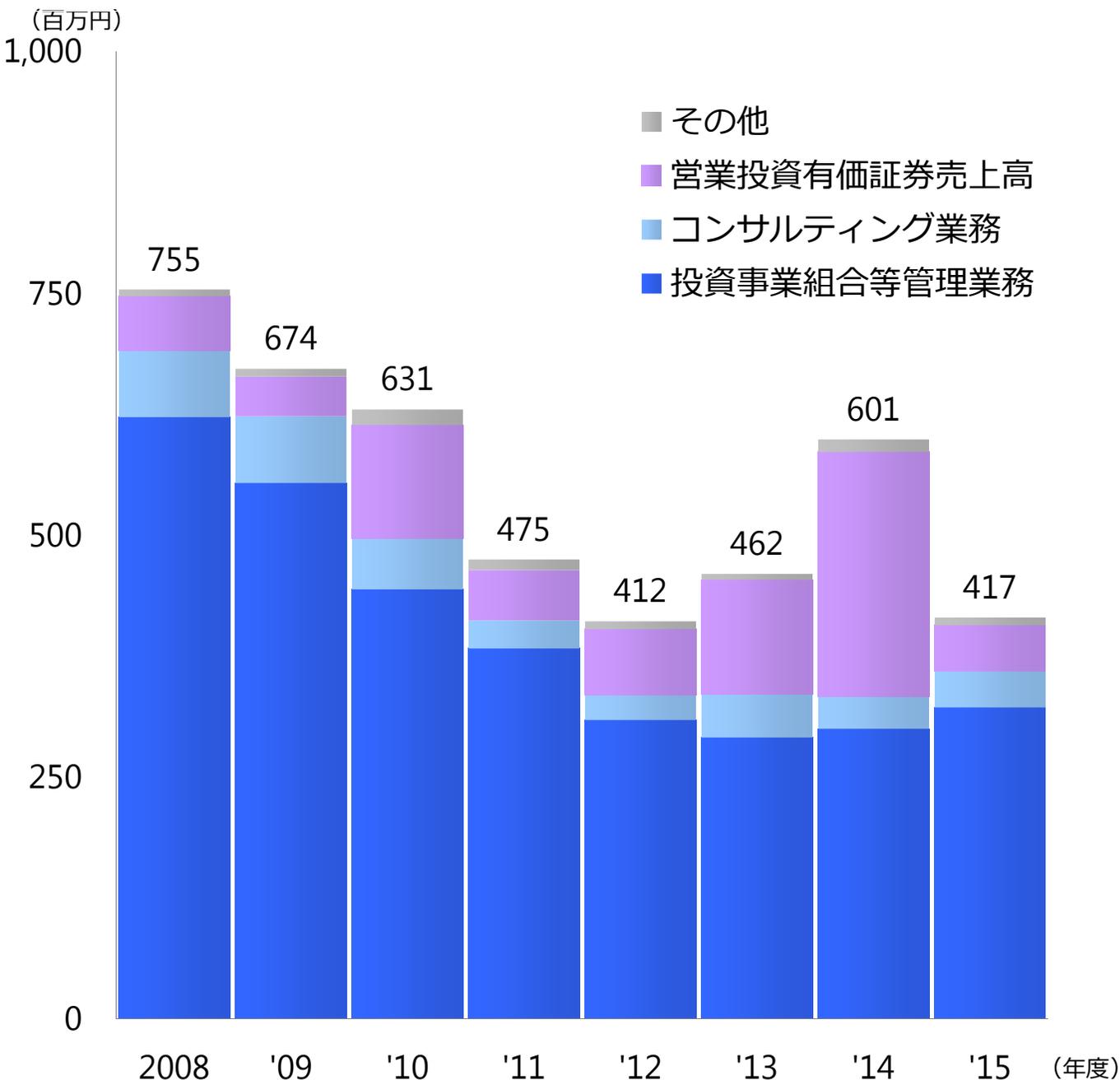
調達資金の大半は**新規設立ファンドへの出資に充当**し、中長期的な企業価値向上の源泉に一方で2015年3月期末時点で99百万円まで目減りした**自己資本の増強**もにらむ

- 資金調達の状況

発行した新株予約権全70個が2015年中に行使され、840,000株を発行、**700百万円を調達**

- 直近の状況

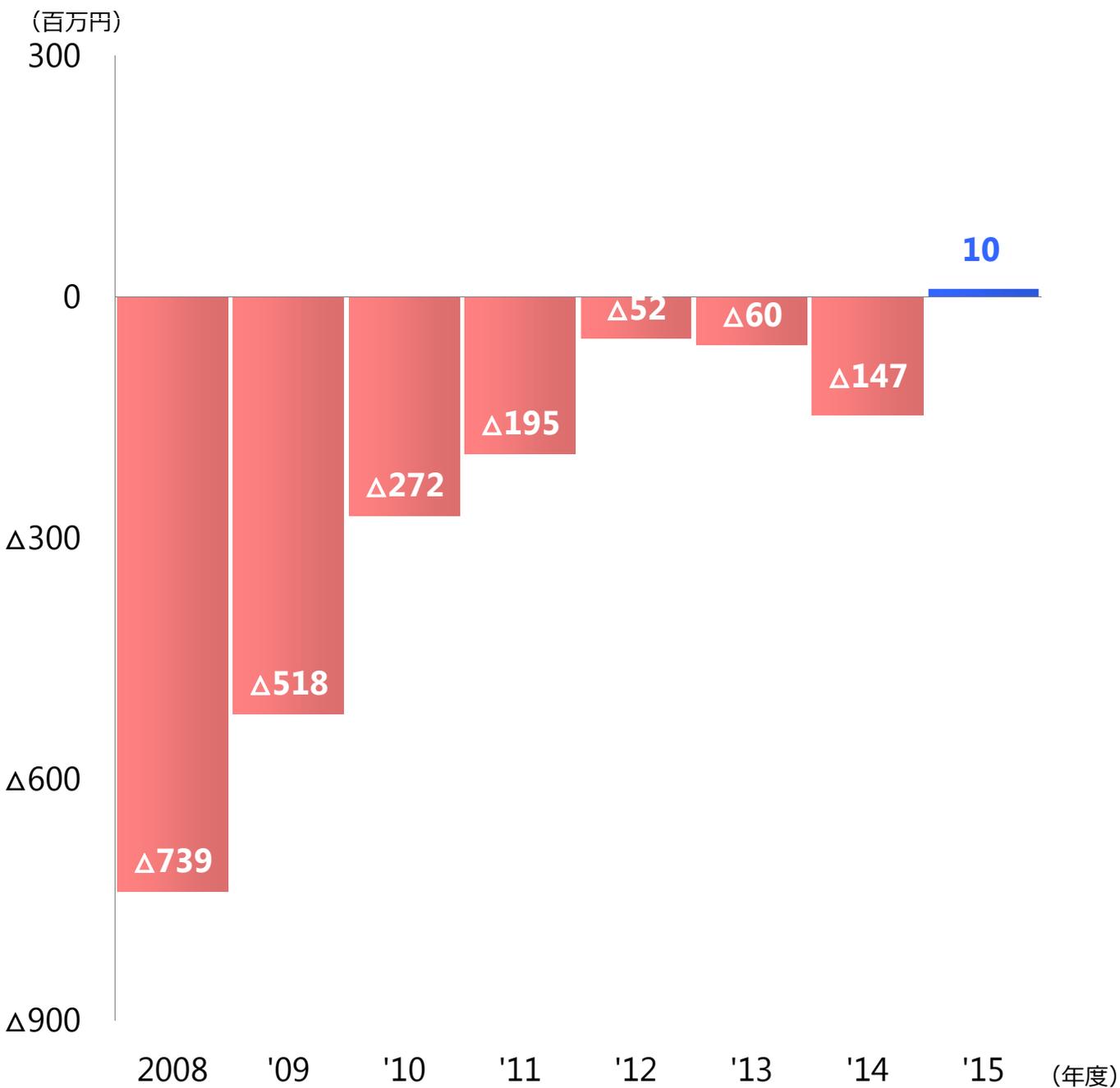
ファンドの営業進捗が想定に及ばず、調達した資金の一部を営業体制の強化に充当するよう方針転換



売上高

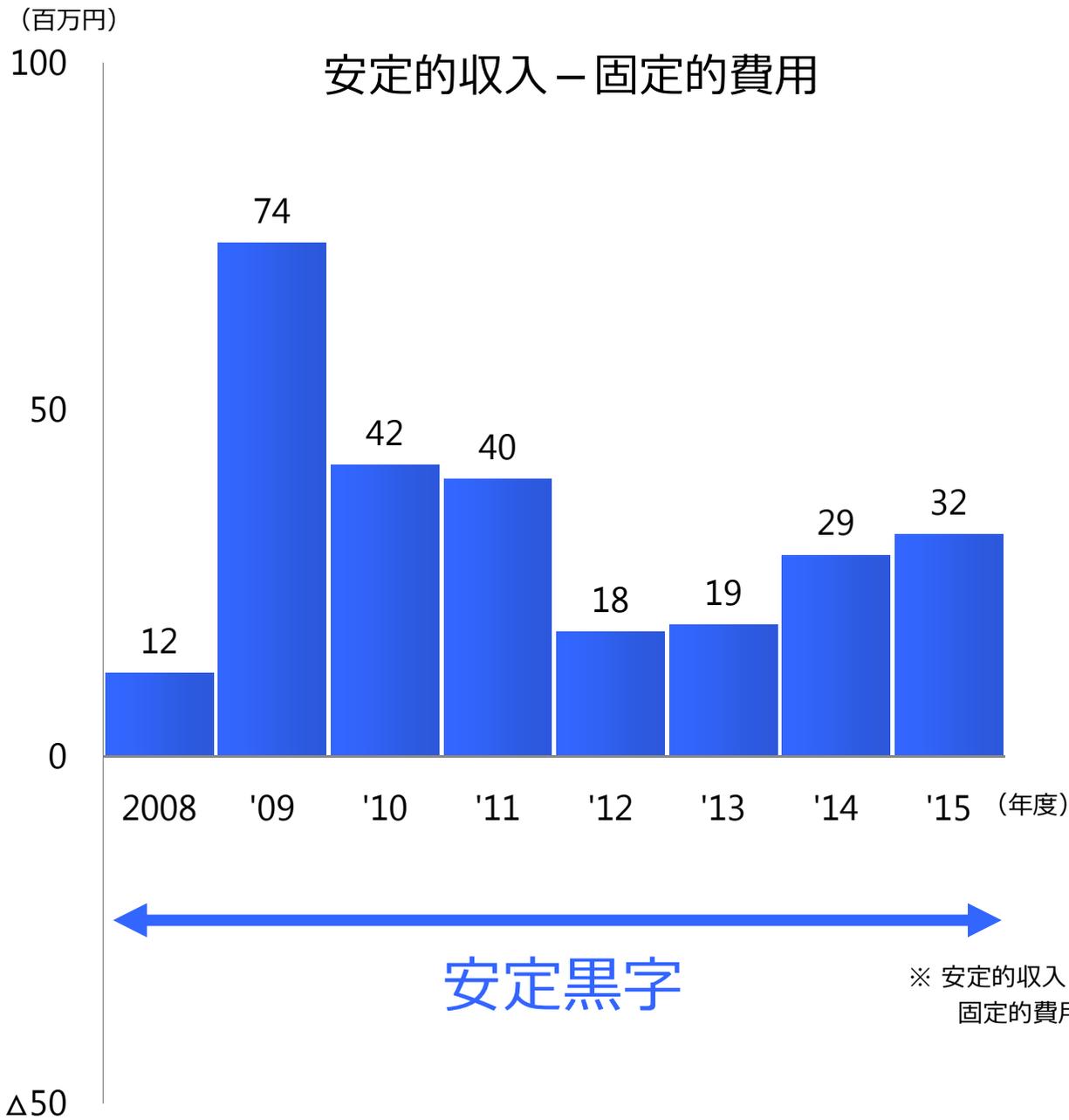
ジェイエスエス持分売却に伴う
 営業投資有価証券売上高増加の
 反動で前年同期比減収も、成功報酬
 44百万円の計上等により
投資事業組合等管理業務収入は増加

2.4. 営業損益推移



営業損益

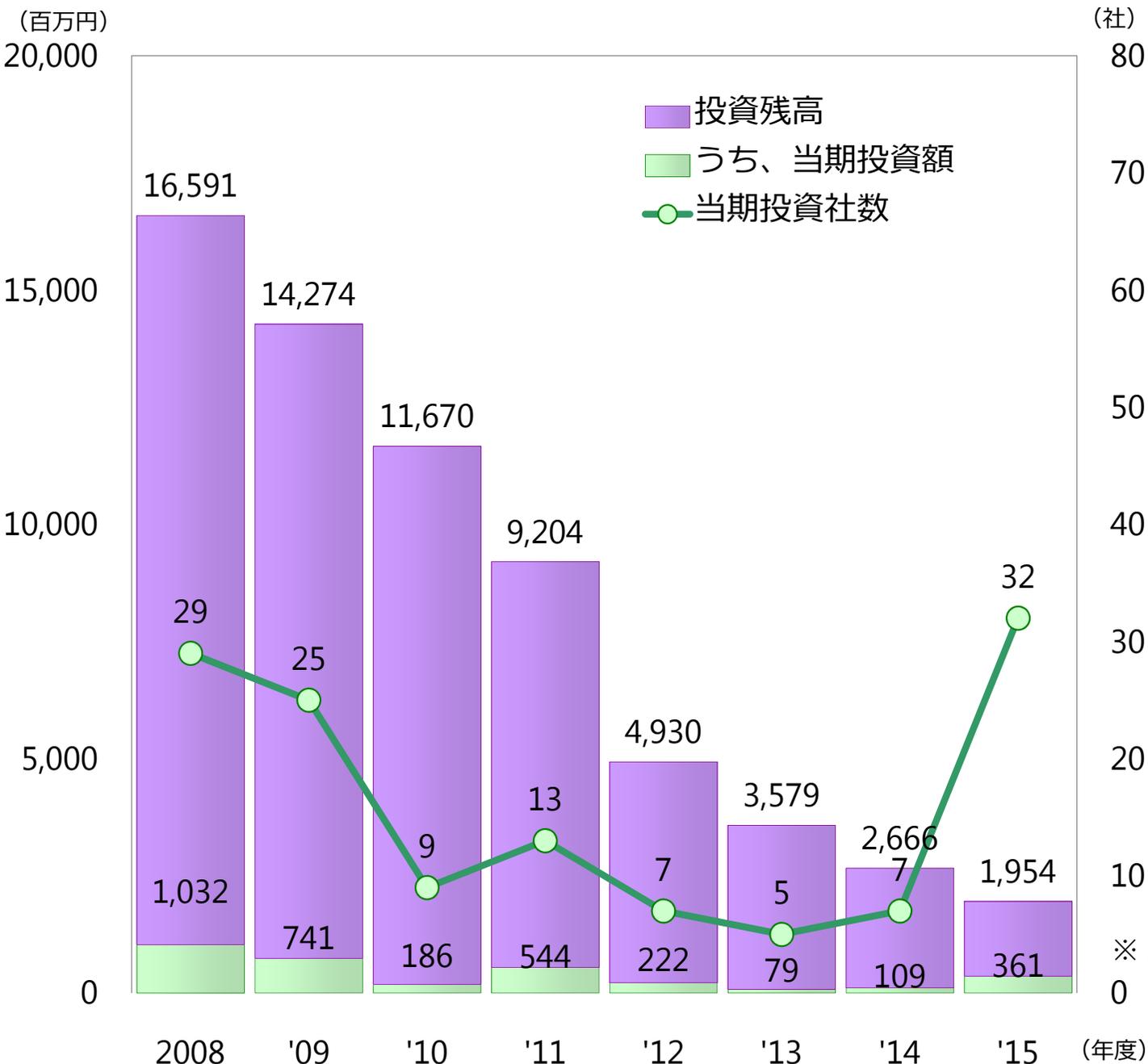
2006年3月期以来、
10期ぶりの営業黒字



安定的収入と固定的費用

2007年度にバランスを大きく崩したものの、
経費削減を進めて
2008年度以降は安定黒字

※ 安定的収入 = 投資事業組合等管理収入 + コンサルティング収入
固定的費用 = 販売費および一般管理費 + 売上原価 (営業部門における活動経費)



投資活動

売却活動の推進により
2007年度をピークに
残高が減少傾向にあった
が、新設ファンドの増加
により**投資社数/額が
増加に転じる**

※ 連結対象の投資事業組合すべてを含んだ数値を記載

株式会社 中村超硬



さかいベンチャー育成ファンドからの新規上場

項目	内容
上場日	2015年6月24日
上場市場	東証マザーズ
本社所在地	大阪府堺市
事業概要	電子材料スライス周辺事業、 特殊精密機器事業、 化学繊維用紡糸ノズル事業
投資時点 株価	1,000円※分割考慮後
上場初値	1,901円
上場初値 投資倍率	1.9倍



上場時の売出、上場後の市場売却により、
ファンド持分50百万円を94百万円で売却

株式会社クレステック

地域ファンド投資企業

上場日 : 2015年7月8日
上場市場 : 東証JASDAQスタンダード
本社所在地 : 静岡県浜松市



事業概要 : 各種マニュアルの制作、ドキュメントソリューションの提供

しずおかベンチャー育成ファンドからの新規上場

投資時点
株価

400円 ⇒

上場初値 1,751円

上場初値
投資倍率

4.4倍

※分割考慮後

上場時の売出、上場後の市場売却により、ファンド持分100百万円を357百万円で売却

主な取り組み

1. 大企業と中小・ベンチャー企業間における連携支援
 - CVCファンド設立
 - 外部パートナーとの提携
2. ベンチャーキャピタル事業の更なる強化
 - IPOに依存しないファンドモデル創出
 - 地域課題を解決する手段へ
3. 新たな収益源の獲得
 - 新規事業による収益源の多様化



●CVCファンド

2014年6月 **ブリッジベンチャーファンド2014**を300百万円で新設

2015年6月 **ウィルグループファンド**を300百万円で新設
ウィルグループ(東証一部)から受託

2015年11月 **フェニックスファンド**を300百万円で新設
フジミインコーポレーテッド(東証一部)から受託

今後も同様の取り組みを継続



●外部パートナーとの連携

2015年5月 **ゼロワンブースター**と業務提携し、オープンイノベーションプロセスを
一気通貫にサポートするCVC連動型アクセラレータープログラムを提供

●企業間連携システム

2014年10月 より**"sohatsu online"** を運営 (<https://sohatsu.asia/>)
事業会社のニーズとベンチャー企業のシーズを効果的に結びつけ
新規事業を創出するプラットフォームに

- IPOに依存しないファンドモデル創出
- 地域課題を解決する手段へ

2015年8月 **事業承継センター**と業務提携し、投資ファンドを活用した
事業承継支援手法の開発・強化を実施

2015年10月 秋田信用金庫、自治体と共同で**あきた創業ファンド**を100百万円で新設
秋田広域都市圏の創業活発化を目的として設立
もりおか、おおさかの先行事例同様、投資の出口として上場を前提としない起業支援ファンド

2015年10月 秋田県信用組合と共同で**秋田元気創生ファンド**を200百万円で新設

2015年10月 いわき信用組合と共同で**磐城国地域振興ファンド**を300百万円で新設

2015年12月 第一勧業信用組合と共同で**かんしん未来ファンド**を300百万円で新設

上記3ファンドは全国信用協同組合連合会の出資、支援を得て運用を行うもの
投資の出口として上場を前提としない、地域のエクイティ支援ニーズに応える新たなファンドモデル

2016年4月 **京都市スタートアップ支援ファンド**を210百万円で新設

京都市内のベンチャー支援を目的として市内2金庫と共同で設立
組合員の他京都市等と連携して運営を行う起業支援ファンド

● 新規事業による収益源の多様化

2016年4月 盛岡市産業支援センターの指定管理者に指定
岩手事務所を同センター内に移転し、**事務所兼インキュベーション施設**として運営を開始

2016年4月 ファンド運營業務と異なる収益軸の確保を目的とし、**経営戦略部**を新設
リソースの外部調達を含め活動領域の拡大を推進



純資産及び発行済株式総数に変更を与えない減資を実施

資本金を適格機関投資家の要件である500百万円まで、資本剰余金を残る欠損填補の範囲内で減額し、**柔軟な資本政策を可能にするとともに、課税標準を抑制**

科目	2016年3月31日現在	実施後
株主資本	779,219	779,219
資本金	2,416,155	500,000
資本剰余金	1,130,605	281,392
利益剰余金	△2,765,369	—
その他利益剰余金	△2,765,369	—
自己株式	△2,172	△2,172
評価・換算差額等	△36	△36
その他有価証券評価差額金	△36	△36
新株予約権	2,872	2,872
純資産合計	782,055	782,055

第19期の展望

100年継続企業を創る

1

地方創生ファンド組成数

国内**ナンバーワン**ポジショニング獲得

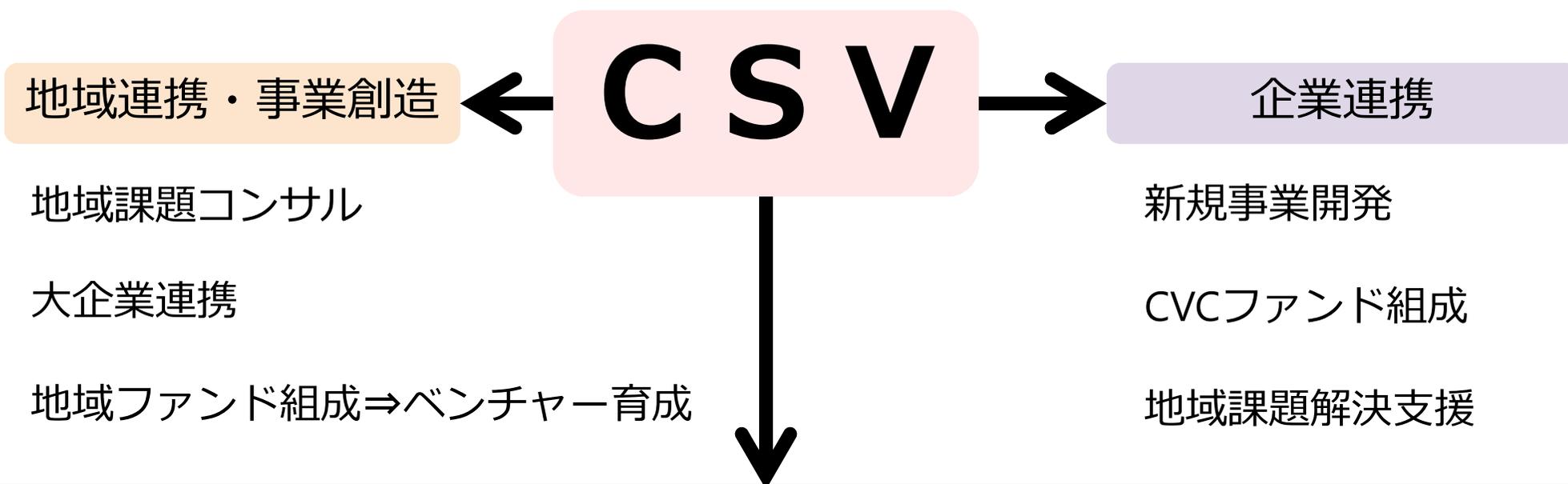
2

コアバリュー:CSV (Creating Shared Value)

国内**オンリーワン**ベンチャーキャピタル

CSVを当社コアバリューに設定

CSVは「社会的課題とビジネス上の課題の両方に対応するところで生み出され、企業の成功と社会の発展を結び付けるもの」(※CSV開発機構Webサイトより引用)



地域社会の課題を解決し、公共の利益と事業の利益を追求
社会の公器となる企業の育成⇒100年継続企業を創る

これまでも、これからもFVCはCSVで事業創造・成長をサポート

1

CSVをコアバリューとし、社会に必要とされる継続性の高い事業を確立

CSV
(Creating Shared Value)

2015年、一般社団法人CSV開発機構に加盟。
持続可能性を備えた事業を世に生み出すことにより、
100年継続企業を創ることをミッションとした当社のコアバリューとして、
全ての当社事業の思考基軸としてまいります。

CSVは「社会的課題とビジネス上の課題の両方に対応するところで生み出され、企業の成功と社会の発展を結び付けるもの」(※CSV開発機構Webサイトより引用)

2

地方創生ファンド組成数No.1のポジショニングとノウハウを生かしたさらなる加速

地方創生
ファンドパッケージ

実績を活用し、地方創生ファンドの進化形態を構築、地域事業を支援。

- ・開業率を高める「創業ファンド」
- ・廃業率を下げる「事業承継ファンド」
- ・地域に事業を創造する「CSVファンド」

各地域が抱える課題解決に必要とされる機能を提供し、地域に企業を創り、
大企業と連携したハンズオンを行うことで、地方での100年継続企業創出を目指す。

3

CSVを軸に事業創造をプロデュースできる社員一人一人の能力を向上

プロデュース

これまでは、地方創生ファンドやCVCファンドの運営上、「ハンズオン」が主流。
これからは、社員一人一人がプロデューサー。企業の姿を変え、事業創造を仕掛ける企業へと変化

4

海外パートナーとの提携を通じたクロスボーダー事業創造の架け橋へ

海外展開

日本のベンチャー企業と海外をつなぐ架け橋としての取り組み。
 海外ベンチャー企業育成プログラムとの連携、海外のビジネスエンジェルと日本のビジネスシーズをマッチングさせる取り組み。
 海外の取り組みを進めながら現地のベンチャー情報を収集。当社の情報ソースを強化し、グローバルなアンテナを張った日本の大企業に対しての提案力の強化につなげる。

5

インパクトある自社新規事業の構築と積極的なPR展開を通じた社会との接点強化

自社事業 PR展開

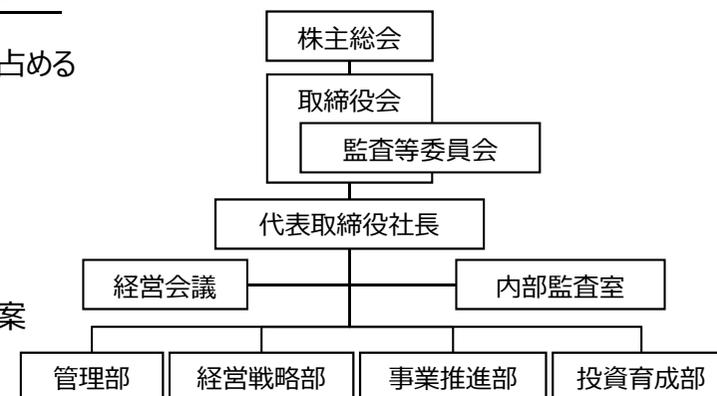
地方での事業創造や企業における新規事業開発、プロデュース機能付加、海外展開等を多くのステークホルダーの方々に知っていただくPR体制を強化。
 当社動向の積極的な広報。
 新体制スタートに伴う当社事業理念の理解促進と社会との接点を強化。

6

今期スタートする各種事業を実現するための新体制の構築

事業実現体制

監査等委員会設置会社として、社外取締役が過半数を占める
 取締役会によるガバナンス重視の経営体制に移行
管理部：当社及び各組合の管理業務全般
経営戦略部：新規事業(外部パートナーとの連携、M&Aを含む)の戦略立案、コミュニケーション事業(PR)、CSV関連事業、グループ会社管理、その他経営戦略の立案
事業推進部：事業会社、自治体、地方金融機関へのファンド組成営業、ファンドの管理運営、インキュベーション施設の企画管理運営
投資育成部：投資先企業の企業価値向上、回収業務



- 会社名 : フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 (FVC)
- 設立年月日 : 1998年9月11日
- 資本金 : 2,416百万円
- 発行済株式総数 : 7,104,600株
- 株式上場市場 : JASDAQ市場 (8462)
- 所在地 : 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659番地 烏丸中央ビル
- 従業員数 : 22名
- 事業内容 : 未上場企業投資業務、投資事業組合の企画・運営
コンサルティング業務など

